

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4446642号  
(P4446642)

(45) 発行日 平成22年4月7日 (2010.4.7)

(24) 登録日 平成22年1月29日 (2010.1.29)

(51) Int. Cl.

F I

HO 4 W 74/08	(2009.01)	HO 4 Q 7/00	5 7 4
HO 4 W 72/04	(2009.01)	HO 4 Q 7/00	5 4 2
HO 4 J 3/17	(2006.01)	HO 4 J 3/17	Z
HO 4 W 84/12	(2009.01)	HO 4 L 12/28	3 0 0 B
		HO 4 L 12/28	3 0 7

請求項の数 12 (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2001-513925 (P2001-513925)
(86) (22) 出願日	平成12年7月24日 (2000.7.24)
(65) 公表番号	特表2003-506932 (P2003-506932A)
(43) 公表日	平成15年2月18日 (2003.2.18)
(86) 国際出願番号	PCT/EP2000/007192
(87) 国際公開番号	W02001/010158
(87) 国際公開日	平成13年2月8日 (2001.2.8)
審査請求日	平成19年7月23日 (2007.7.23)
(31) 優先権主張番号	9918130.7
(32) 優先日	平成11年8月3日 (1999.8.3)
(33) 優先権主張国	英国 (GB)
(31) 優先権主張番号	9921548.5
(32) 優先日	平成11年9月14日 (1999.9.14)
(33) 優先権主張国	英国 (GB)

(73) 特許権者	590000248
	コーニンクレッカ フィリップス エレク トロニクス エヌ ヴィ オランダ国 5 6 2 1 ベーアー アイン ドーフエン フルーネヴァウツウェッハ 1
(74) 代理人	100087789
	弁理士 津軽 進
(74) 代理人	100124224
	弁理士 ▲高▼▲橋▼ 理恵
(74) 代理人	100122769
	弁理士 笛田 秀仙
(74) 代理人	100114753
	弁理士 宮崎 昭彦

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 無線通信システム

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第一局と、複数の第二局と、第二局から第一局へのデータ送信用のランダム・アクセス・チャンネルとを有する無線通信システムであって、

前記第一局は、

ページング・インジケータ・チャンネル若しくはアクイジッション・インジケータ・チャンネル内の不使用ビット中において、該チャンネルと同じチャネライゼーション・コードを用いて、ランダム・アクセス・チャンネル・リソースの利用可能状況を示すランダム・アクセス・チャンネル・ステータス・メッセージを送信する手段を有し、

前記第二局は、

前記ステータス・メッセージを受信する手段と、

前記メッセージの内容を用いてどのランダム・アクセス・チャンネル・リソースをリクエストするかを特定する手段とを有する無線通信システム。

【請求項 2】

第二局から第一局へのデータ送信用のランダム・アクセス・チャンネルを有する無線通信システムにおいて用いられる第一局であって、

ページング・インジケータ・チャンネル若しくはアクイジッション・インジケータ・チャンネル内の不使用ビット中において、該チャンネルと同じチャネライゼーション・コードを用いて、ランダム・アクセス・チャンネル・リソースの利用可能状況を示すランダム・アクセス・チャンネル・ステータス・メッセージを送信する手段が具備された第一局。

**【請求項 3】**

請求項 2 記載の第一局であって、

前記ランダム・アクセス・チャンネル・ステータス・メッセージを 3 ビット・ワードとして生成する手段が具備されたことを特徴とする第一局。

**【請求項 4】**

請求項 3 記載の第一局であって、

前記ランダム・アクセス・チャンネル・ステータス・メッセージを 4 倍の繰り返しコーディングを用いてエンコードする手段が具備されたことを特徴とする第一局。

**【請求項 5】**

請求項 2 乃至 4 のいずれか一記載の第一局であって、

第二局からのリソース要求に応じてランダム・アクセス・チャンネルにビットレートを動的に割り当てる手段が具備されたことを特徴とする第一局。

10

**【請求項 6】**

第一局へのデータ送信用のランダム・アクセス・チャンネルを有する無線通信システムにおいて用いられる第二局であって、

ページング・インジケータ・チャンネル若しくはアクイジッション・インジケータ・チャンネル内の不使用ビット中において、該チャンネルと同じチャネライゼーション・コードを用いて、前記第一局によって送信されたランダム・アクセス・チャンネル・ステータス・メッセージを受信する手段と、

前記メッセージの内容を用いてどのランダム・アクセス・チャンネル・リソースをリクエストするかを特定する手段とが具備された第二局。

20

**【請求項 7】**

第二局から第一局へのデータ送信用のランダム・アクセス・チャンネルを有する無線通信システムを作動させる方法であって、

前記第一局が、

ページング・インジケータ・チャンネル若しくはアクイジッション・インジケータ・チャンネル内の不使用ビット中において、該チャンネルと同じチャネライゼーション・コードを用いて、ランダム・アクセス・チャンネル・リソースの利用可能状況を示すランダム・アクセス・チャンネル・ステータス・メッセージを送信し、

前記第二局が、

前記ステータス・メッセージを受信し、

前記メッセージの内容を用いてどのランダム・アクセス・チャンネル・リソースをリクエストするかを特定することを特徴とする方法。

30

**【請求項 8】**

請求項 7 記載の方法であって、

前記ランダム・アクセス・チャンネル・ステータス・メッセージは規則的にブロードキャストされることを特徴とする方法。

**【請求項 9】**

請求項 7 又は 8 記載の方法であって、

前記ランダム・アクセス・チャンネル・ステータス・メッセージは、いずれのランダム・アクセス・チャンネルが空いているかを示すことを特徴とする方法。

40

**【請求項 10】**

請求項 7 又は 8 記載の方法であって、

前記ランダム・アクセス・チャンネル・ステータス・メッセージは、該ランダム・アクセス・チャンネルにおいていずれのビットレートが使用可能かを示すことを特徴とする方法。

**【請求項 11】**

請求項 7 又は 8 記載の方法であって、

前記ランダム・アクセス・チャンネル・ステータス・メッセージは、該ランダム・アクセス・チャンネルにおいて使用可能な最大ビットレートを示すことを特徴とする方法。

**【請求項 12】**

50

請求項 7 乃至 11 のいずれか一記載の方法であって、

前記第一局は、第二局からのリソース要求に応じてランダム・アクセス・チャンネルにビットレートを動的に割り当てることを特徴とする方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

(技術分野)

本発明は、第二局から第一局へのデータ伝送用ランダム・アクセス・チャンネルを有する無線通信システムに関し、特に上記システムにおいて用いられる第一及び第二局と、上記システムの作動方法とに関する。本明細書は、特に新たなユニバーサル・モバイル・テレコミュニケーション・システム(Universal Mobile Telecommunication System; UMTS)を参照してシステムの説明をしているが、説明される技術は他の移動無線システムにおいても等しく適用可能であることは明らかである。本明細書において、ランダム・アクセス・チャンネルという語は、ランダム・アクセス伝送が行われる論理チャンネルを指し、通常は複数の独立した物理チャンネルから成る。

【0002】

(背景技術)

ランダム・アクセス・チャンネルは、無線通信システムの一般的な要素であり、移動局が基地局に短いメッセージを送るのを可能にする。例えば、移動局に電源が入れたられた時に基地局に信号を送ったり、移動局が呼接続を許可されない時に基地局にデータ・パケットを送信したり、移動局が用いるリソースの割当を基地局にリクエストしたりすることに用いられる。

【0003】

移動局が実際に呼接続がされていない時にしばしば基地局へのデータ・パケットを送信しなければならないシステムにおいて、標準的なランダム・アクセス・チャンネルと同様の特性を有し、但し移動局から基地局への小さい若しくは中間サイズのパケット伝送用のランダム・アクセス・パケット・チャンネルを設けることは有益である。

【0004】

UMTSに向けて開発された上記スキームの一実施形態においては、移動局に多数のランダム・アクセス・パケット・チャンネルが用意される。移動局によって送信されたパケット・チャンネルへのアクセス要求は、ランダムに選択されたパケット・チャンネルの一に対応するシグネチャにエンコードされる。チャンネルが使用可能であれば、基地局はリクエストした移動局にそれを割り当てる。

【0005】

シグネチャのランダムな選択によって、移動局は他に使用可能な適当なチャンネルが存在する場合であっても、その選択されたパケット・チャンネルへのアクセスを拒否され得る。この問題は、移動局にとって、干渉の増加や容量ロスと同様の致命的な遅延を生じさせ得る。

【0006】

(発明の開示)

本発明の目的は、改善されたスループット及び低減された送信遅延を有するランダム・アクセス・チャンネルを提供することである。

【0007】

本発明の第一の態様によれば、第一局と、複数の第二局と、第二局から第一局へのデータ送信用のランダム・アクセス・チャンネルとを有する無線通信システムであって、前記第一局は、ランダム・アクセス・チャンネル・リソースの利用可能状況を示すランダム・アクセス・チャンネル・ステータス・メッセージを送信する手段を有し、前記第二局は、前記ステータス・メッセージを受信する手段と、前記メッセージの内容を用いてどのランダム・アクセス・チャンネル・リソースをリクエストするかを特定する手段とを有する無線通信システムが提供される。

【0008】

10

20

30

40

50

本発明の第二の態様によれば、第二局から第一局へのデータ送信用のランダム・アクセス・チャンネルを有する無線通信システムにおいて用いられる第一局であって、ランダム・アクセス・チャンネル・リソースの利用可能状況を示すランダム・アクセス・チャンネル・ステータス・メッセージを送信する手段が具備された第一局が提供される。

【0009】

本発明の第三の態様によれば、第一局へのデータ送信用のランダム・アクセス・チャンネルを有する無線通信システムにおいて用いられる第二局であって、前記第一局によって送信されたランダム・アクセス・チャンネル・ステータス・メッセージを受信する手段と、前記メッセージの内容を用いてどのランダム・アクセス・チャンネル・リソースをリクエストするかを特定する手段とが具備された第二局が提供される。

10

【0010】

本発明の第四の態様によれば、第二局から第一局へのデータ送信用のランダム・アクセス・チャンネルを有する無線通信システムを作動させる方法であって、前記第一局が、ランダム・アクセス・チャンネル・リソースの利用可能状況を示すランダム・アクセス・チャンネル・ステータス・メッセージを送信し、前記第二局が、前記ステータス・メッセージを受信し、前記メッセージの内容を用いてどのランダム・アクセス・チャンネル・リソースをリクエストするかを特定することを特徴とする方法が提供される。

【0011】

(本発明を実施するための態様)

ここで、添付図面を参照して、本発明の実施形態を、一例として、説明する。図面において同じ符番は対応する機能を表すのに用いられている。

20

【0012】

図1において、無線通信システムは、第一局(基地局)100と、複数の第二局(移動局)110とを有する。基地局100は、マイクロコントローラ( $\mu C$ )102と、アンテナ手段106に接続された通信手段( $Tx/Rx$ )104と、送信電力レベルを変える電力制御手段( $PC$ )107と、 $PSN$ 若しくは他の適当な網との接続のための接続手段108とを有する。各移動局110は、マイクロコントローラ( $\mu C$ )112と、アンテナ手段116に接続された通信手段( $Tx/Rx$ )114と、送信電力レベルを変える電力制御手段( $PC$ )118とを有する。基地局100から移動局110への通信は、下り回線チャンネル122において行われ、移動局110から基地局100への通信は上り回線チャンネル124において行われる。

30

【0013】

図2に、周波数分割多重システムにおいて作動するランダム・アクセス・パケット・チャンネルの基本的なスキームを示す。図2において、上側が上り回線チャンネル124であり、下側が下り回線チャンネル122である。アクセス段階において、移動局110はまずプリアンブル( $P$ )202を送信する。プリアンブル202は、16個の使用可能なシグネチャ群の中からランダムに選択されたシグネチャによってエンコードされ、特定のアクセス・スロットにおいて、低い電力レベルで送信される。

【0014】

シグネチャは、固有のビット・シーケンスによって変調されたスクランプリング・コード及びチャネライゼーション・コードによって特徴付けられる信号である。互いに直交するシグネチャ群は、互いに直交する変調用ビット・シーケンス群を定義することによって得ることができる。従って、異シグネチャ群は、スクランプリング・コード若しくはチャネライゼーション・コード(即ち物理チャンネル)を変えることによって、又は、互いに直交する異ビット・シーケンス群を用いることによって、得ることができる。別の方法として、厳密な直交性は無いが低い相互相関を有するように、より大きいシグネチャ群を定義する方法もある。本明細書では16個のシグネチャから成るシグネチャ群について述べるが、異なるシグネチャ数を有するシグネチャ群を用いる他の実施例も可能である。

40

【0015】

この基本的なスキームにおいて、アクセス・プリアンブル202をエンコードするため

50

のプリアンブル・シグネチャの選択は、各プリアンブル・シグネチャが数の限られた上り回線及び下り回線チャネルに対応しているため、移動局 110 によってリクエストされる物理チャネルを決定する。基地局 100 は、プリアンブルを正確に受信及びデコードすると、プリアンブル・アクノレジメント (A) 206 を送信する。図 2 に示す例において、第一のプリアンブル 202 が送信された後、アクノレジメント用に割り当てられた (通常 1 ms の長さであろう) スロット 204 においてアクノレジメントが返されていない。よって、移動局 110 は、別のプリアンブルをより高い電力レベルで送信する。スロット 204 において、再びアクノレジメントが受信されなかったため、移動局 110 は、別のプリアンブル 202 を更に高い電力レベルで送信する。該プリアンブルは基地局 100 によって受信及びデコードされ、基地局 100 はアクノレジメント 206 を送信する。これによってアクセス段階は完了する。

10

## 【0016】

移動局 110 にそのプリアンブル 202 が受信されたことを知らせるだけでなく、アクノレジメント 206 は、正であればリクエストしたチャネルが空いていることを知らせ、負であればリクエストしたチャネルが拒否されたことを移動局に知らせる。負のアクノレジメント (NACK) は、基地局 100 が (基準信号若しくはパイロット信号に対して) シグネチャの位相を反転させることによって表示され得る。別の方法としては、基地局 100 によってアクノレジメント用に用いられているシグネチャが NACK としても用いられるようにすることが考えられる。

## 【0017】

20

基地局 100 は、各アクセス・スロットに対してアクノレジメントを一つだけ送信するが、プリアンブル 202 は数多く送信される。選択の一つの基準は、最も高い電力で受かったプリアンブル 202 を承認するようにすることである。移動局 110 がプリアンブル 202 を送信する際の初期電力レベルは、通常、移動局 110 が開ループ電力制御を用いることによって決定される。複数のプリアンブル 202 が送信されても、各プリアンブルが異なるシグネチャによってエンコードされていれば、各移動局 110 は、そのプリアンブル 202 が正しく受信されたか否かを知ることができる。しかし、複数の移動局 110 が同じシグネチャを選択し、よってそのプリアンブル 202 が受信されたと信じてしまう可能性もある。これらの移動局 110 がそれぞれデータの送信を開始すると、衝突を来し、いずれのデータも正確に受信されない結果となるであろう。

30

## 【0018】

これが起きる確率を減らすために、リクエストされたチャネルが空いていることを示すアクノレジメント 206 の送信後、競争解決 (contention resolution) 段階が始まる。ここで、基地局 100 によって承認されたシグネチャに対応するシグネチャによってエンコードされたプリアンブル 202 を送信した各移動局 110 は、更に、競争解決プリアンブル (contention resolution preamble; CP) 208 を送信する。このプリアンブル 208 は、16 個の使用可能なシグネチャから成る別のシグネチャ群からランダムに選択されたシグネチャによってエンコードされる。該別のシグネチャ群は、アクセス・プリアンブル 202 に用いられるシグネチャ群と異なる (ビット・シーケンス、スクランプリング・コード、若しくはチャネライゼーション・コードのいずれかが変えられたことによる) シグネチャ群でもよく、アクセス段階と競争解決段階とで共有されるシグネチャ群であってもよい。次いで、基地局 100 は、例えば最も高い電力で受かった、選択されたプリアンブル 208 に対応する競争解決アクノレジメント (CA) 210 を発行する。アクノレジメント 210 は、移動局 110 をデータ送信可能にする。従って、複数の移動局が同じアクセス・プリアンブル 202 を選択した場合であっても、競争解決プリアンブル 208 も同じものが選択される可能性は低い。

40

## 【0019】

この競争解決段階の後、基地局 100 は、物理制御チャネル (Physical Control Channel; PCCCH) 212 の送信を開始する。物理制御チャネル 2

50

12は、移動局110に、必要に応じて送信電力を調整するように指示する電力制御情報を含む。そして、移動局110は、通常はプリアンプル送信に用いられたのとは異なる物理チャンネル上の割り当てられたパケット・チャンネルを用いて、一若しくは複数のデータ・パケット(PKT)214を送信する。PCH212は、データ214の送信と同時に開始してもよく、データ送信の前に閉ループ電力制御が確立されるくらい十分に先行して開始してもよい。

#### 【0020】

上記説明した基本スキーム固有の問題は、移動局110が、他に使用可能な適当なチャンネルが存在し得るにもかかわらず、選択されたプリアンプル・シグネチャに対応するパケット・チャンネルへのアクセスを拒否され得ることである。これは、移動局110が、チャンネルが使えるようになるのを待つのに大幅な時間を費やすという事態を、特にトラフィック負荷が大きい時に、起こりやすくする。

#### 【0021】

よって、移動局110がどのパケット・チャンネル・リソースが空いているかをパケットを送信することを試みる少しでも前に特定することができれば有益である。更には、適切なプリアンプル・シグネチャの選択にも役立つ。これが実現され得る一つの既知の方法は、移動局がシステムの作動を、例えばアクセス・プリアンプル202及びアクノレジメント206に傾聴することによって、パケット送信前の長期間モニタすることである。しかし、これは移動局110によって大幅な送信遅延を引き起こし、情報は完全に信頼できるものではなくなるかもしれない(なぜなら、移動局110はセル内に送信されたプリアンプル202及びアクノレジメント206のすべてを受信することができないからである)。

#### 【0022】

図3に示す本発明に従って改善されたシステムでは、基地局100は、現在空いているリソースについて移動局110に知らせるためのパケット・チャンネル利用可能状況(availability; AV)メッセージ302を繰り返しブロードキャストする。AVメッセージ302を一フレームにつき1度ブロードキャストすることは、下り回線オーバーヘッドと遅延との間の妥当な妥協点である。なぜなら、送信全体での遅延(通常は数フレーム分)はデータ・パケット214を送信するために掛かる時間によって決定されるからである。必要であれば、AVメッセージ302は、際立った衝突が起きない程度に頻繁にブロードキャストするようにしてもよい。パケット・チャンネルを16個までサポートするシステムは、各チャンネルの利用可能状況を個別に表すために、AVメッセージ302毎に16ビットのステータス情報を必要とする。

#### 【0023】

移動局110が適当なリソースが使用可能であるという表示を有するまで送信することを試みるのを防ぐことによって、干渉は最小化され、移動局110は電力を節約できる。これらの改良は、高負荷状況下でのパケット・チャンネル全体のスループットを増やす。

#### 【0024】

競争解決の終わりにチャンネル割当が実行されるシステムにおいては、更に別の改善点も可能である。このようなシステムは、我々の同時係属英国特許出願第0000293.1号(我々の参照番号:PHGB000003)に開示されている。このようなシステムにおいては、特定のビットレートが使用可能か否かを表すだけでよい。例えば、利用可能なビットレートが6つ(例えば60、120、240、480、960、及び1920kbp/s)あるとすると、それぞれの利用可能状況を表すためには6ビットが必要となる。

#### 【0025】

上記ビットレート群に0ビットレート(0ビットレートは、空いているリソースが無いことを表す)を加え、使用可能な最大のビットレートのみをブロードキャストすることによって、上記ビット数をより減らすことができる。使用可能な最大のビットレートより下のビットレートはいずれもサポートされ得ると仮定すると、3ビットのみが必要となる。

#### 【0026】

UMTS に沿った実施形態において、このメッセージにとって特に有益な配置は、ページング・インジケータ・チャンネル (paging indicator channel; PICH) の一部とすることである。ページング・インジケータ・チャンネルは、移動局 110 にそれを持つメッセージがあることを知らせるために用いられる。該チャンネルは、10ms フレーム毎に 300 ビットを送信する容量を持っているが、ページング・インジケータ・メッセージには 288 しか要求されない。各フレームの残り 12 ビットは AV メッセージ 302 を送信することに用いられ得る。別の方法として、AV メッセージ 302 がページング・メッセージとして送信されることも可能であり、PICH と同じチャネライゼーション・コードを有するが PICH において用いられないビットによって空いたスペースを占めるだけである別の物理チャンネルにおいて送信されることも可能であり、同様の特性を有する他のチャンネルの一部として送信されることも可能である。

10

#### 【0027】

AV メッセージ 302 が PICH の一部として送信されると、ページ・インジケータ・ビットと AV ビットとの間の電力オフセットが可能となり、有益である。これは、それぞれが異なる適用されるコーディングの繰り返し度合を有することが可能になると同時に、2つの情報種類に対して異なる QoS (サービス品質) 要求を設定することが可能となる。3ビットの AV メッセージ 302 が PICH の不使用ビットにおいて送信された場合、4 倍の繰り返しコーディングを適用することができる。12 ビットより多い要求をする AV メッセージ 302 の形式が選択された場合、メッセージは、例えば 2 つ以上のフレームに分割されてもよい。

20

#### 【0028】

UMTS に沿った実施形態においては、アキュジッション・インジケータ・チャンネル (Acquisition Indicator Channel; AICH) の不使用スペースに配置することも可能であり、同チャンネルの一部とすることも可能である。このチャンネルは、2 フレーム (20ms) に渡って 300 シンボルを送信するが、60 シンボルは不使用である (4 シンボルずつ 15 グループ)。よって、AV メッセージ 302 は、(メッセージにおけるビット数に依存する) 適当な繰り返しコーディングを用いて、1 若しくは 2 フレームに渡って配送され得る。

#### 【0029】

AV メッセージ 302 は、規則的に送信されることが好ましい。厳密な規則性が不可能である状況もあり得る。例えば、AV メッセージ 302 のビット数が所望送信区間において使用可能なビット数のちょうど約数でなかった場合、特別の対策が必要となり得る。不使用のまま残されるビットがいくつかあるようにしてもよい。AV メッセージ 302 に適用される繰り返し数を動的に変化させ、AV メッセージの送信間隔を変化させるようにしてもよい。しかし、この方法では、送信間隔が満たされ得るように、メッセージの部分毎に異なる繰り返し因数を有することとなり得る。

30

#### 【0030】

基地局 100 は、より確実な検知を補助するために、AV メッセージ 302 の電力レベルを移動局 110 に知らせ得る。このような情報は、共通報知チャンネル (common broadcast channel; BCH) で送信され得る。電力レベルは、共通パイロット・チャンネル (common pilot channel; CPICH) などの別の下り回線チャンネルと関連して指定され得る。

40

#### 【0031】

図 4 は、本発明に係る、基地局 100 が AV メッセージ 302 をブロードキャストする方法をまとめたフローチャートである。本方法は、工程 402 において、基地局 100 がランダム・アクセス・チャンネルを可動させる時に開始する。工程 404 において、基地局 100 は、潜在的に使用可能なパケット・チャンネルのうちいずれのチャンネルが不使用であるかを特定する。この情報から、基地局 100 は、工程 406 において、ランダム・アクセス・パケット・チャンネルで送信すべきデータを有する移動局 110 に対して使用可能なビットレートのうち最も高いビットレートを決定する。次いで、基地局 100 は、この情

50

報を用いて、工程 4 1 0 において送信する A V メッセージ 3 0 2 を生成する。次いで、工程 4 0 4 から 4 1 0 が、通常各フレームにつき 1 度、繰り返される。

【 0 0 3 2 】

本発明に係る方法固有の利点は、基地局 1 0 0 が、チャネルへのビットレートの割当をトラフィックの要求に合うように予め割り当てるのではなく、それらがリクエストされた時のみ割り当てるという柔軟性を有することである。基地局 1 0 0 は、容量が現在使用可能であるが該容量が他の目的によって要求され得る場合、A V メッセージ 3 0 2 に表されるビットレートを制限し得る。

【 0 0 3 3 】

上記述べたように本発明を F D D システムに適用すると同様に、本発明は他の種類の通信システムにおいても適用され得る。例えば、上り回線の送信が下り回線の送信とは異なるタイムスロットで行われる時分割多重 ( T D M A ) 方式においても使用可能である。

【 0 0 3 4 】

上記述べた実施形態は、パケット送信に関する。しかし、同じ原理はデータ送信用に設定された回路を有するシステムに対しても等しく適用され得る。

【 0 0 3 5 】

本開示を読めば、当業者には他の変形例も明らかであろう。そのような変形例は、無線通信システム及びその構成部品の設計、製造、及び使用において既に知られ、本明細書で既に説明された機能の代わり若しくは加えて使用され得る機能を含み得る。本願において請求項は機能の特定の組み合わせに対して作成されたものであるが、本願の開示の範囲は、いずれの請求項において現在請求されているのと同じ発明であってもなくても、本発明と同じ技術的課題の一部若しくは全部を緩和するものであってもなくても、明示若しくは暗示若しくはそれらの一般化によってここに開示された新規な機能若しくは新規な機能の組み合わせを含み得ることは明らかである。この結果、本願は、上記のような機能、及び/若しくは、本発明の又はそこから引き出されるあらゆる別の適用の実施中の機能の組み合わせに対して、新しい請求項を作成し得ることを示している。

【 0 0 3 6 】

本明細書及び請求項において、要素に先立つ「 a 」若しくは「 a n 」という語は、そのような要素が複数個存在する場合を除外しない。更に、「 c o m p r i s i n g ( 有する、含む ) 」という語は、リストアップされた以外の要素若しくは工程の存在を除外しない。

【 0 0 3 7 】

( 産業上の適用性 )

本発明は、例えば U M T S などの無線通信システムの範囲に対して適用可能である。

【 図面の簡単な説明 】

【 図 1 】 無線通信システムの概略ブロック図である。

【 図 2 】 基本的なランダム・アクセス・パケット・チャネル案を図示する図である。

【 図 3 】 パケット・チャネル利用可能状況メッセージを有する強化されたランダム・アクセス・パケット・チャネル案を図示する図である。

【 図 4 】 本発明に係る、ランダム・アクセス・パケット・チャネル利用可能状況情報をブロードキャストする方法を図示するフローチャートである。



【図 1】

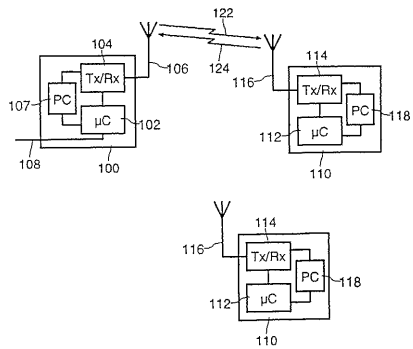


FIG. 1

【図 2】

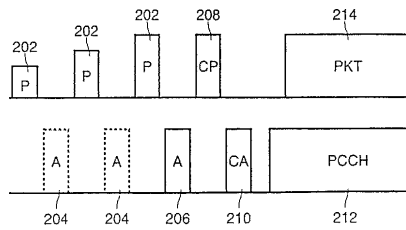


FIG. 2

【図 3】

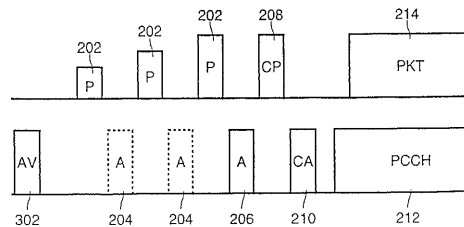
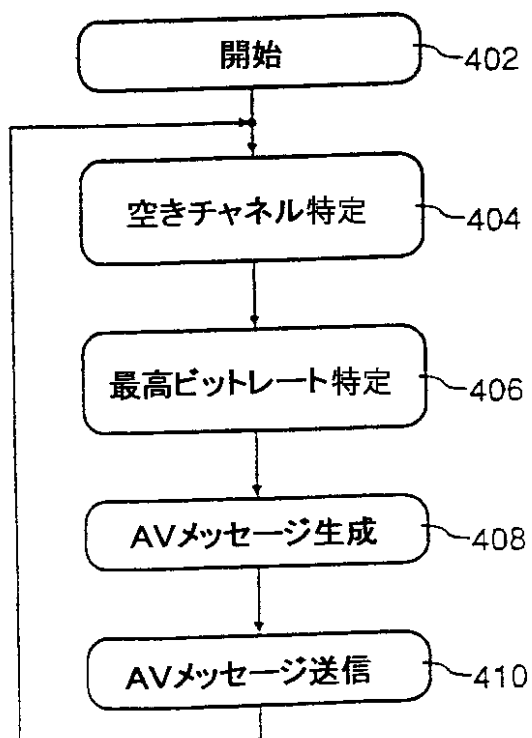


FIG. 3

【図 4】



---

フロントページの続き

- (72)発明者 ムルスレイ, ティモシー ジェイ  
オランダ国, 5 6 5 6 アーアー アインドーフエン, プロフ・ホルストラーン 6
- (72)発明者 ハント, バーナード  
オランダ国, 5 6 5 6 アーアー アインドーフエン, プロフ・ホルストラーン 6

審査官 遠山 敬彦

- (56)参考文献 特開平 1 1 - 1 6 4 3 7 2 ( J P , A )  
国際公開第 0 0 / 0 1 3 4 2 6 ( W O , A 1 )  
米国特許第 0 5 5 2 8 6 6 4 ( U S , A )

- (58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)
- |      |             |
|------|-------------|
| H04J | 3/17        |
| H04B | 7/24 - 7/26 |
| H04W | 4/00 -99/00 |